

No.71 contents

- 1 春季二科展開催
- 2 〈絵画〉総評 2017春季二科展 選抜出品者
- 3 春季二科展の意義と方向性について
- 4 2017春季二科展の展示者数と展示点数
- 5 〈絵画〉作品寸評
- 6 〈彫刻〉総評 特集—作品の運搬・搬入について
- 7 〈彫刻〉受賞選抜者作品
- 8 第101回二科展巡回展
- 9 第102回二科展巡回展日程(予定)
- 10 二科展巡回展 全国見てある記
- 11 第3回二科東北支部連合展を終えて
- 12 第102回展に向けて 支部通信
- 13 絵画部・彫刻部 出品のQ&A 大作への挑戦
- 14 第39回定時会員総会 第102回二科展日程表
- 15 バリ賞 研修報告
- 16 第3回コラボ展示 新支部長紹介 短信 帝国ホテル二科サロン 東郷青児展 計報 事務局日より 編集後記



春季

発行人：田中良 発行：公益社団法人二科会
<http://www.nika.or.jp/> TEL：03-3354-6646



表紙：五味祥子

春季二科展 開催

田中良

4月18日から24日まで、新緑眩い上野、東京都美術館で、春季二科展が開催されました。幸い天候にも恵まれ、入場者も昨年以上の賑わいで盛会でした。

これも会員の意識の高揚と、選抜者の出品作への顕れと深く敬意を表します。

会場へ目を移すと、昨年の反省から、会場に無理がなく、観賞に効果的であった。

彫刻室に入ると、会場の都合上、小品が殆んどだが、夫々ユニークで洗練されており、観賞者も常に多勢でよかった。

都美術館で作品を発表したいと希う美術団体がひしめく今日、二科会は抽選もなく開催出来る伝統の重責を肝に銘じ、常に新しい試みに挑戦しつつ、人間としての根っこも大きく育てて下さい。

最後にお骨折りをいただいた理事、会員の皆様、いつも明るく元気な事務局に厚く御礼申し上げます。秋の102回展、期待しております。



展示打ち合わせ



展示1室



出品者のギャラリートーク



選抜出品者

春季二科展の意義と方向性について
山中宣明

平成20年に改装なった都美術館にて4部門で再出発した春季展は、現在は絵画部・彫刻部で実施し10回目を迎えた。春季展の意義や方向性については何度も検討されている。春季展の開催と会員の出品は定款で定められた義務であること、会員以外の本展受賞者を中心とした選抜出品により、次世代の育成・新人奨励の場とすることが総会等で確

認されている。実験的作品を出品すべしとのマニフェストは他者の価値判断や評価より作者自身の制作意識の問題と捉えるべき課題である。現在の展示方法が唯一無二の既定路線ではなく、会員と選抜者とのウエイトバランス、春季の賞の位置づけ等は今後も大きな課題である。本展は六本木、春季展は古巣の上野で開催できることは二科会の歴史と業績に対する評価である。感謝しつつ、新たな春季展の在り方を活発に論議し、絵画と彫刻のコラボ展示等多様な建設的提案が待たれる。



選抜作家展示 2室



授賞式

2017春季二科展の展示者数と展示点数
会場：東京都美術館 会期：2017年4月18日～4月24日

| | (絵画) | | (彫刻) | | 展示者数 | 展示点数 |
|-----|--------------|------|------------------|------------------|------|------|
| | 人数 | 点数 | 人数 | 点数 | | |
| 会員 | 135名 | 135点 | 50名 (会友6名を含む) | 50点 (会友6点を含む) | 185名 | 185点 |
| 選抜者 | 29名 (賞3名) | 29点 | 6名 | 6点 | 35名 | 35点 |
| 計 | 164名 | 164点 | 56名 | 56点 | 220名 | 220点 |

彫刻部 (会友)

| | |
|-----------|-----------|
| 千 葉 伸 子 | 千 葉 知 葉 |
| 浅 草 義 治 | 浅 草 知 葉 |
| (二 般) | |
| 萩 野 弘 一 | 萩 野 一 新 潟 |
| 本 田 俊 朗 | 本 田 一 新 潟 |
| カ ツ ノ ユ キ | カ ツ ノ ユ キ |
| 齊 藤 充 輝 | 齊 藤 充 輝 |



展示5室

絵画部 総評
生方純一

春季展は秋の本展に対して、実験的な制作の発表と新人育成の場と位置付けられているが、従来の殻を破ることや新表現を試みることの難しさが感じられる。2017年の春季展は昨年比べて会員の出品者が、絵画・彫刻を併せて12名増えたが、その反面、不出品の会員も一定数で推移している。背景には高齢など諸事情が考えられる。初日は前夜からの春嵐のような荒れ模様にもかかわらず、朝には治まり、予定どおりに展示作業を終え、午後2時のオープン時には入り口前に40～50名の観覧者が並び、理事長初め各理事や会員が迎えた。絵画部の選抜出品は29名。130号の大作奨励作家の辞退などもあり、予想に反して大作が少なく、壁面は会員の出品増もあったが、整然とした展示になった。また、彫刻部の出品は、選抜作品6点を含め、やや小振りの作品が多く、鑑賞しやすいが小品展の趣になった。



来場者の賑わい

絵画部の春季二科賞(1名)と春季賞(2名)の選考は展示の終わったあと、出席会員76名により投票が行われた(無効投票1名)。1人4名以内の作品を投票する、との決まりで、開票は田中理事長初め11名の絵画部理事が立ち会って開票された。結果は各作品が拮抗し、上位は19票が2名、続いて14票。依って上位2名を出席理事による決戦投票で春季二科賞を決したが、僅差であった。春季二科賞には岩手の宮本恵美子さん、春季賞に和歌山の尾中文さんと愛知の佐野義博さんが決まった。いずれも地方支部からの出品者であり、盛大な拍手を送りたい。

◇2017春季二科展 選抜出品者

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|-----------|---------|----------|---------|---------|---------|-----------|-------|-------|---------|-----------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 宮 本 恵 美 子 | 中 山 一 郎 | 坪 坂 一 郎 | 田 中 英 子 | 清 水 英 子 | 志 波 宏 子 | 佐 野 義 博 | 後 藤 寿 美 子 | 桑 子 純 子 | 菊 島 ち ひろ | 川 崎 英 世 | 尾 中 文 和 | 緒 方 香 江 | 大 野 久 四 郎 | (二 般) | 柳 賢 淑 | 山 田 佳 子 | 野 上 さ や か | 清 水 尚 子 | 工 藤 静 香 | 木 村 信 子 | 岡 部 桃 子 | 山 下 泰 弘 | 小 川 エ リ | 田 中 昌 美 | 永 井 勝 子 | 高 岡 次 子 | 加 藤 由 喜 | 高 橋 美 穂 | 市 川 久 子 |
|-----------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|-----------|---------|----------|---------|---------|---------|-----------|-------|-------|---------|-----------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|



山田 佳子 「想像と創造」 F100



中山 かほり 「流木」 F100



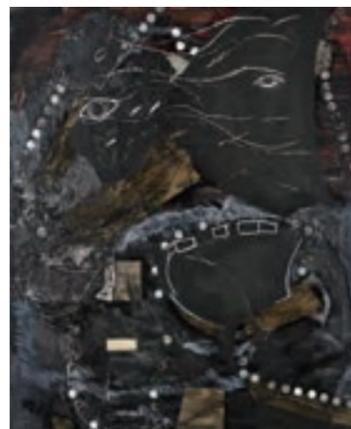
清水 英子 「晩冬散策」 F100

山田佳子 明度差の少ない画面にはこの作者ならではの想いが詰まっているようだ。重厚に見えたマチエールが、実際は丹念に薄描きを重ねた結果である事に好感が持てる。画面左上の黄土色の僅かな二ヶ所の空間は、形、色、面積的にも今後の課題とされたい。(渡辺倭文子)

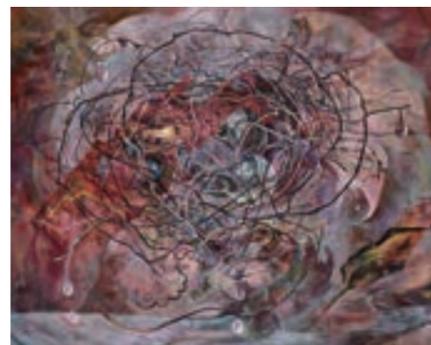
中山かほり 限りなく静寂なモノクロの世界を表現して、生物にも通ずるものを感じます。形と空間の関係を追求して、画面構成(流木)に緊張感が表現されて、質感も見応えがあります。画面前景の空間が離れて見ると部分的に、単調な色面に見えます。今後の課題とします。(戸狩公久)

清水英子 的確な構成、観察力が備わり、画面全体が呼吸しています。色調と形が響き合い、晩冬の雰囲気心地良く漂って、樹々の幹に斜光線が差し込んで時間の流れと空気感があり丁寧に描き込んでいます。スズメと雪の描写が印象的で密度の高い表現です。(戸狩公久)

作品寸評



佐野 義博 「叫び」 F100



尾中 文 「ゆりかご」 F100



宮本 恵美子 「トルン」 F100

佐野義博 重たい表現になりそうなテーマを、自分なりに咀嚼し、ユーモラスにも感じさせる作品に昇華させた。黒い紙のカラージュに白い線を絡ませ、独特のマチエールで創った画面は、おらかであり、リズムカルだ。展示会場でも存在感を示していた。(中原史雄)

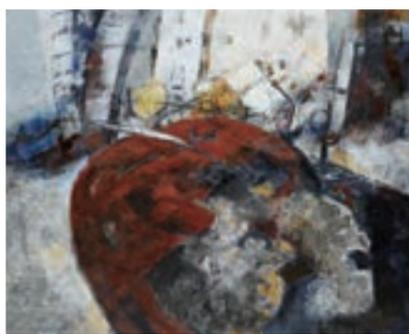
尾中文 有刺鉄線や蔓が複雑に絡み合っただけで不思議な空間の「ゆりかご」です。周辺にはドロっとした羊水?が垂れ神秘を醸し出している。作者独自の「ゆりかご」のイメージが強く、読み解きは難解だが、鉄線のディテールや羊水等の確かなスキルが相俟って魅力的な秀作になっている。(中島敏明)

宮本恵美子 「トルン」は作家のイメージを形成している内的な心象風景だが筆力のあるタッチで生命感を出している。画面左の青の色面と右の白との対比が印象的で新鮮である。岩手の風土性を生かした作者の情感の深さがこの作者の魅力である。今後の活躍を期待したい。(吉井英二)

私の選ぶ1点



大野 久四郎 「春のおとずれ」 F100



清水 尚子 「再生」 F100



田中 昌美 「街」 F100



岡部 桃子 「記憶」 F100



山下 泰弘 「樹生(屋久島・白谷雲水峡の春)2017」 F130



市川 久子 「仮象」 F130

大野久四郎 空気感が描かれています。トタン作りの小屋の質感が緊張感を表現している。電信柱の下の赤い部分と、明るい灰色と緑の色調が効果的に伝わってきます。日常的な風景に情感があります。画面の左右の空間の広がりを試みて下さい。(戸狩公久)

清水尚子 崩壊した建物の残骸を、ビルの屋上から見下ろすような捉え方が面白く、明暗のバランスや色彩も美しい。作者が長年堅実な構成で、しっかり描き込んでいた都市の風景は魅力的であった。しかし、今回の作品は構成及びカラージュの効果などに関して課題が残る。(渡辺倭文子)

田中昌美 クリスタルな画面に建物がいろいろな角度から描かれている。そして重なりあった空間はエポッシユな効果を生み出している。モチーフ、テーマによって表層の扱い処理に工夫が必要である。(森岡謙二)

岡部桃子 抽象画面ほど具体的な内容表現が判然と伝わってくる。3つに別れた画面構成は記憶のドロイング的な表現である。(森岡謙二)

山下泰弘 長い年月を生きぬいた大樹に対する畏敬の念が伝わってくる。樹木を支える大小の石が自然の厳しさをアピールしている。大作の画面に繊細なマチエールがあればと……。(森岡謙二)

市川久子 オリーブ系の色彩を基調に、黒褐色、白、補色等のハイモニーが美しい。マチエールの効いた白いフォルムは画面に心地よいリズムを作っている。絵具の付きも良く、無難にまとめているが、何か物足りなさを感じる。観る人に何を語りかけているのだろうか。(渡辺倭文子)

受賞選抜者作品



荻野 弘一 「らくだの国(光と影)」



浅草 義治 「夜のひととき」



千葉 伸子 「横たわるポーズI」



齊藤 充輝 「行き違う」



カツノユキコ 「marubana」



本田 俊朗 「奏—G線上のアリア」

- ①クロネコヤマト宅急便
三辺計≦160cmまで
重量≦25kgまで
・ヤマト便
宅急便規格を超える
- ②佐川急便宅配便
三辺計≦260cmまで
重量≦50kgまで
③ゆうパック
(郵便事業)
三辺計≦170cmまで
重量≦30kgまで

と、作者が搬入代行業者宛に作品をパーツに分解して宅配便等で送り、搬入日に本人が美術館で組み立て搬入するケースの二つがあります。宅配便等で美術館宛に作品を送っても美術館は受け取りません。

搬入代行一式を依頼する場合、指定の運送会社はありませんが、自由な業者を選んで下さい。搬入日の指定された時間内に作品を搬入してもらえば大丈夫です。搬入の手続きも事前に打ち合わせが出来るので、手続きを代行できるのであれば業者や代理人でもかまいません。

個人運搬で取り上げた「赤帽」は、業者ですが方法的には個人運搬に近いので先程の記述で済ませます。

次に作品を分解して宅配便などで送る方法です。宅配便の会社ですが、以下に主な業者を紹介します。

彫刻作品は運ぶのも展示するのも手間がかかり、危険と重労働をともないますので、協力して作業することが必須です。それだけに作品を展示した後は充実感を感じ、仲間意識も高まります。

(友)

最近宅配便で小分けして作品を送り、後で組み立てる作家が増えていきました。また搬入の取扱業者では、作品保管料など別途料金が掛かる事があります。送る際は業者と十分に打ち合わせして下さい。

初出品や地域に出品者がいない等、細かい点もあろうかと思いますが、その際は二科会事務局にご相談下さい。又、先生方に質問があった時は宜しくお願いたします。

さて、作品輸送の宛先になる取扱業者を参考まで紹介します。

- ①彩美堂②ヤマトロジステイクス③美術梱包ヒグチ④トータル・アート・サービスHIGUCHI⑤マルイなどです。連絡先や詳細は彫刻部出品規約の注意事項を参照下さい。

*三辺計とは、宅配便の縦+横+高さの合計の長さです。料金等詳細はインターネットで送料の虎「主要宅配便の料金比較」を検索すると便利です。

彫刻部 春季二科展総評

小田 信夫



新緑の薫る中、上野公園内の東京都美術館にて、4月18日から24日に渡り春季二科展が開催されました。春季展会場では当日の朝から展示作業を済ませ、

その後の午後2時の開場を迎えると言う慌ただしさを、展示委員を始め出品者諸氏の奮闘の下、それらを迎える事ができました。そして、彫刻の会場を見渡せば、会員会友の出品者の数も昨年より増えて居り、昨年度本展での受賞者の作品を含め小品も混じっている中、夫々個性溢れる感性の基、その発露とも言い得る作品の展示模様を見るに付けその発散する様には、心を打つものを感じる次第であった。

只、例年、彫刻部に於いてこの時間的制約が大きく起因するところであろうが、展示に関して其の内容に物足りなさと言うのか、魅力に欠ける所大成りとの声が上がっているのも現状であり、今後その点に対して対処する事肝要であろう。

又、春季展のテーマである出品者への作品における実験的な挑戦の場としての意識の啓発についても、劇的には無いにしても徐々に散見出来る様な状況に成りつつあると感じます。

最後に、この春季展を成す絵画彫刻と言う、切っても切れない二本柱の共同作業は、何とも清々しく、会場を豪華な花畑の様仕立て上げるアンサンブルを感じさせるものと、改めて感動した次第である。



特集

作品の運搬・搬入について

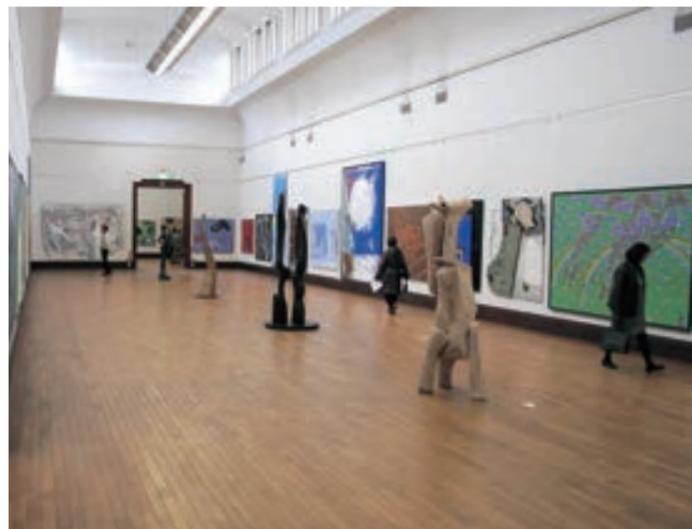
98回展に四国から初出品された方で、作品の運搬に40万円かかった方がいました。これは特別な事ではありません。彫刻を出品する作家にとって運搬費をいかに安くするかは、いつも大きな課題になっています。そこで、かつて「運搬費の軽減」について書かれた藤巻会員のレポートをもとに、今回この問題の特集しました。

彫刻作品を出品してみたいと思っっている方に少しでも役に立てればと思います。

一、個人運搬・搬入
個人で運搬・搬入される方は、やはり東京近郊の方に多くいます。搬入日に自家用車で作品を運んだり、レンタカー(軽トラなど)を自ら運転して来たりです。又、業者搬入になりますが、運転免許のない方は、「赤帽」で助手席に同乗して(しなくても可)作品を運ぶ方もいます。ただし、赤帽の荷台の内寸は2m×1.45cmですので、これを超える場合は分解して運んで美術館で組み立てるようになります。東京近郊の方は個人運搬・搬入がお勧めです。

二、グループ運搬・搬入
グループ運搬・搬入は、地方の二科展支部などで複数人集まってトラックをチャーターして作品を運ぶ方法です。車の重量・容積の点で効率的に積載できれば、グループの人数が多いほど1人単価は安くなります。この方法は地元作家のアトリエをまわる経費や集荷場所へ持ち込む費用、作品を集めて車に乗せるなどの手間がかかりますが、地方から大きくて重い作品をクレール付きのトラックなどで運ぶ場合、比較的安くて便利な方法といえます。グループのメンバーは必ずしも彫刻だけとは限らず絵画の方々と一緒に運ぶ作家もいます。地方からの出品の方は、自宅近郊の彫刻会員・会友や支部の方と連絡をとってみる事が大切です。グループの人数が増えることはお互いの輸送コスト削減になりますし、何よりも地元の二科の関係者と親しくなるチャンスでもあります。

三、業者運搬・搬入
業者搬入は依頼した業者が運搬・開梱・受付までの搬入一式を代行するケース



京都展は今年も京都市美術館で、例年通り京都新聞の共催により、二階スペースに独立展との同時開催となりました。



■京都展
平成28年11月24日
～12月4日
京都市美術館



黒川彰夫

絵画151点、彫刻14点、デザイン73点、写真83点、計321点の展示であり、美術館の規模からして、やむなくこの展示数となっております。しかし、入場者は期日が今年の1000回展より2日少ないにもかかわらず、6,448人と221人上回りました。

3名、会員推奨2名、会友推奨2名を数え、京滋作家の活躍が見られました。平成29年の4月からは、改修により美術館の使用ができず3年間は別館での開催となり、期日も1週間と短く、展示数もますます絞り込む必要が出て、展覧の効果的な方法を考えなければなりません。今後101回展から再スタートした本会が若手の育成とともに中堅、ベテランのさらなる努力を求め、常に各自が課題を持ち、それを追求していくことが重要で、そこに二科会の更なる発展があると思います。



■大阪展
平成28年10月25日
～11月6日
大阪市立美術館

大阪展は、10月25日から11月6日まで、天王寺公園内の大阪市立美術館で開催しました。



今回、会員、会友推奨者を含む7名の受賞者をこの関西支部から輩出することができたことは、大阪展の開催にあたっての、我々の大きな喜びとなりました。新しい受賞者が、新鮮な活気とパワーを支部全体にもたらしてくれることを期待します。

11月3日の文化の日には、恒例のロビーコンサートを開催。「芸術の秋」を来場者に体感していただきました。また、家族三世代でアートに親しんでもらえる、「第65回こども二科」をはじめ、二科出品を目指す方々へのワンポイントアドバイスも、例年通り開催。期間中、好天にも恵まれ、昨年の記念展同様の多くの来場者を得ることができ、盛況のうちに閉幕することができました。

尾崎功

今年度の東海展は年の暮れに開催しました。例年は10月に東京に続いて名古屋に巡回するのですが、愛知トリエンナーレの関係で3年に一回この時期になります。絵画部は会員の力作が並びA室をはじめとして、2点展示をまとめるB室など迫力ある展示構成、デザイン部はF・Gの2室を利用して彫刻部とともに展示し、変化に富んだ展示となりました。12月18日午前、京都から搬送された作品を受け入れ19日に会員・会友・一般出品者が繰出で陳列作業。

■東海展
平成28年12月20日
～12月25日
愛知県美術館ギャラリー
(愛知芸術文化センター)



Christmas NIKA

20日のパーティーには共催の中日新聞社、スポンサー各社からの来賓、出席者多数で、恒例の鏡開き、各地受賞者・初入选者を紹介し、毎年好評の色紙抽選会で盛り上がりました。25日には会員・会友・出品者の搬出作業で、広島へと作品を送り出し、6日間の入場者数は6,971人と盛会でした。



少子高齢化、ポータレス時代に向かい応募者の質も変わってきましたが、公募展の美術、文化への貢献は決して少なくないものです。作品の鑑賞者がどのような反応を見せるか、無責任にニヤニヤして横目でながめている芸術の横行は浅薄すぎます。二科東海支部は東海地方の雄として、自信を持って、他の公募展と協力をしてやってゆきます。

三後勝弘



11月開催は、名園の兼六園の木々も美しく、芸術の秋とも言われますように、公園からの人々の流れも期待出来ます。北陸は伝統工芸の土地柄

今後は北陸の良さを取り入れながら、制作に運営に取り組みたいと思います。山岸光代

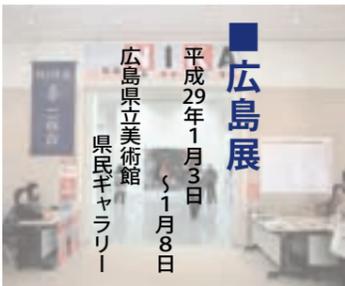


■金沢展
平成28年11月11日
～11月20日
金沢21世紀美術館

金沢21世紀美術館、市民ギャラリーA・Bの二会場を今回も使用し開催出来ました。前衛的な美術館の作品展と同時に開催でもあり、御蔭様で多くの人達が足を運んで下さいました。



でもあり、若い人達にも大いにアピールです。高校の美術専攻コース、中学の美術部の生徒達の団体鑑賞も近年はあります。顔をあえて描いていない絵を見て不思議な印象を受けたと言う生徒達、意外性や構図や色彩等学び取り、感性を磨く場ともなると好評でした。また北陸での二科展は、福井、石川、富山の三県のマスコミ各社の力を借りながらの開催です。今回で41回目の開催となり、マスコミ各社には感謝です。芸術に関心のある土地柄ではありますが、支部員力は、いろいろと、もつともつです。

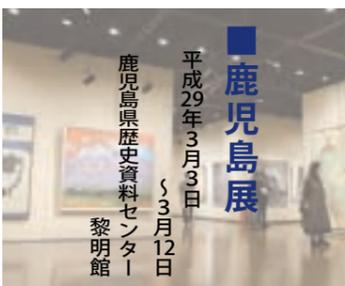


第101回二科広島展は
正月3日、初日を迎えました。
今回初日が3日というこ
とで展示は年末の28日に行
うことになりました。



巡回展運送業者変更もあり、不安一杯のスタートでしたが、各部同人のご協力で順調に準備が完了、正月を迎えることが出来ました。又、例年、初日の懇親会が最終日前日となりましたが、派遣理事の西先生をお迎えすることができ、広島支部としては大きな励みとなりました。新人も全員参加し、有終の美を迎えることが出来ました。

高藤博行



鹿児島展
平成29年3月3日
鹿児島県歴史資料センター
黎明館



デザイン、写真の作品約350点が展示され、盛大に開催されました。会期中には会員・会友によるギャラリートークを行い、それぞれ特徴のある内容でお客様に楽しんでいただけたと思います。他に支部同人の小品作品のチャリティ販売を今回も行いましたが、毎年、観覧して下さっている方々にはそれも楽しみにしていただいている様子が窺えました。運営面では、担当者から役割分担や会場サ

インなど、全体を見渡しながらの細かな指示や準備があり、支部同人全体の協力によってスムーズな運営がなされました。10日間の会期中の総入場者数は3,090名(すべて鹿児島の春の風物詩として定着した感もある巡回展ですが、さらに充実した展覧会となるよう今回の課題を整理し、次回につなげていきたいと思っています。

前田芳和



第102回二科展
巡回展日程(予定)

- ◆東海展
愛知県美術館ギャラリー
平成29年10月3日(火)
10月9日(月)
- ◆富山展
富山市民プラザ
平成29年10月18日(水)
10月22日(日)
- ◆京都展
京都市美術館 別館
平成29年10月24日(火)
10月29日(日)
- ◆大阪展
大阪市立美術館
平成29年10月31日(火)
11月12日(日)
- ◆広島展
広島県立美術館
平成30年1月9日(火)
1月14日(日)
- ◆鹿児島展
鹿児島県歴史資料センター
黎明館
平成30年3月10日(土)
3月18日(日)
- ◆福岡展
福岡県立美術館
平成30年3月20日(火)
3月25日(日)



福岡展
平成29年3月22日
3月26日
福岡県立美術館



講演会にて
派遣理事 中原史雄
キャンバスに向かう前に、「描く」とは、「観せる」とは、と改めて考えてみる。自分らしい作品を創るには、何が必要かについて、3月22日に福岡展巡回展で話してきた。私の、思ったように描けない、結果も出

なかつた体験に基づいた制作論。参加者を元気にさせたいと考えた企画でした。他開催地でも要請があれば出かれます、事務局まで。



例年開催の福岡市美術館が改装のため、今回は、福岡県立美術館での開催となりました。会場が前会場と比べると狭いため、会場構成に手間取りましたが、コンパクトで見やすい会場になったのではないかと思います。入場者数は3,149名と例年より少なかつたですが、充実感のある5日間となりました。

100回展では記念事業として特別展示、講演会、バスツアー等行いましたが、今回もいろいろの関連事業を開催いたしました。理事の中原史雄先生を講師にお招きし「自分らしい作品づくり支援講座」テーマと描き方」と題して特別講演会を開催しましたが、自分らしい作品を創るためのハウツーを解りやすく実践的・具

体的にご示唆いただきました。40名定員をはるかに超え折り畳み椅子を急遽準備することに、大変熱気のある会場となりました。またギャラリートークでも中原先生からの作品批評を希望する出品者の熱気で大変賑やかな会場となりました。今回は、地元の商品者による「自作を語る」ギャラリートークも毎日行うことになりましたが、こちらも大変好評でした。会場入口での景品抽選では、色紙の抽選に加えて協賛者から提供いただいた豪華景品の抽選も行い、賑わいに華を添えました。

田浦哲也

二科展巡回展
全国見てある記

渡辺倭文字
(会員・東海支部)

101回展の会員賞を受賞した記念に、各地の二科展巡回展を観よう！と7開催地すべての会場を見て歩いた。各開催地の二科展はそれぞれ興味深く勉強になった。一鑑賞者としての印象を簡単に。

大阪：会場の広さを活かし、具象系と抽象系の部屋を分けた構成。初めて見た「こども二科展」も盛況。金沢：会場内に案内係が点在し、平日でも沢山の入場者は新聞社主催の強みか。京都：レトロな狭い会場に、理事、評議員を中心に会員70点の展示。ここに展示されたことに感謝。

者が総出で、二科展らしい熱気を感じた。鹿児島：二つの大きな部屋を見渡せるようにパネルの立て方が工夫され、独自のチャリティー小品展が楽しい。福岡：例年とは違う狭い会場の展示のご苦労を感じた。イベント企画も盛会で、色紙抽選会では大当たりを引き、巡回展追いかけて鑑賞の最後の地で良い記念となった。

第3回二科東北支部連合展を終えて

二科東北支部連合 代表 及川英之



河北新報 2017年6月3日



第3回二科東北支部連合展は、2,000名を超す来場者で大成功を収め、終了しました。同人数が増加し、前回より広さが2倍以上の会場での展示でした。2点出品したことで、作者の意図や作品が放つエネルギーが、何倍もの大きなものになり伝わりました。初日、理事長の田中良先生はじめ理事等の先生方10人に賛助出品作品の解説、研究会での一人一人に対するの懇切な指導をいただきました。先生方の熱意溢れる一言一言に、同人一同感動し感謝致しております。ここまでの成長することができましたことに深く御礼を申し上げます。

絵画部・彫刻部 出品のQ&A 会友・一般出品の皆さまへ

《絵画部》

・誰が審査するのですか？
絵画部会員全員で審査に当たります。

・入選はどやって決めるのですか？
原則として会員全員の挙手制度を貫いていきます。決定までは1次、2次の最終審査まで挙手の数により厳正中立に決定します。例えば3点出品した場合、まず3点全体の質をみて入選、再考、落選のいずれかを決め、入選が決まると各作品の挙手最多数をもって入選作を決定します。1次審査で挙手数が足りず、再考に残った作品も慎重に審査を重ね挙手により入選を最終決定します。

・二点入選や賞はどうやって決まるのですか？
賞審査は候補になった作品を審査を重ね徐々に絞り込み、過去の受賞歴等を鑑み、必要に応じて合議制で意見を交わした上で、挙手により最終決定します。

・二点入選は候補から展示効果を考え、二点入選にふさわしい作家と作品を選抜します。

《彫刻部》

・入落審査について
彫刻部会員全員が審査に参加します。一般出品者の作品、および会友で2点以上出品された方の2点目からが審査の対象になります。初回の審査では3分の2以上の挙手をもって入選・落選を決定します。3分の2に届かなかった作品は「再考」として2回目の審査を行います。2回目の審査では決を採る前に作品についての意見を出し合います。そして、審査員の過半数により最終決定します。入落審査は会員にとっても大切な勉強の場です。

・授賞審査について
賞には一般出品者・会友・会員の別があります。一般出品の方が受賞できるものに二科賞・彫刻の森美術館奨励賞・特選・新人奨励賞があります。会友の方が受賞できるものに二科賞・会友賞があります。また、昨年の100回展のように節目の年には記念大賞・記念賞も用意されています。会員は審査に先立ち一般出品者用・会友用の投票用紙を持ち、改めて全作品を見て回ります。賞には序列がありますがその投票用紙に記入された作品の得票をノミネートと考へ、その後会員の合議により賞を決定します。この投票用紙には「会友推挙」、会友の方には「会員推挙」の欄が別枠であり、それぞれの推挙に相応しい方の氏名を記入します。そしてこれも得票数を参考にしながら合議により決定しています。
(文責：彫刻部 宮澤光造)

大作への挑戦 - 熊本・ふるさとの復興、そして発展を -

熊本支部長 木戸 征郎



熊本北高校 土田圭司校長先生と生徒たち

一連の熊本地震で大きな被害を受けた南阿蘇方面からの通学生が多い、熊本県立熊本北高等学校を対象として支援活動を行った。美術部員と希望者による生徒の参加者は約30名。学校行事の多い3月でしたが、我が国を代表する歴史ある二科会についての知識をお持ちの学校長をはじめ、理解ある先生方と関心ある生徒達にも積極的に対応して頂きました。

生徒達にとっては、世界に誇る雄大な自然と、常に活動をつづけている活火山の阿蘇山や歴史あるスケールの大きい熊本城は、常日頃より元気を頂く元となつていて、それをそれぞれの復旧復興を願う気持ちを強く表現したのでしよう。

描いている生徒の中には、身体や着衣のユニホーム等に絵の具が付くのも気にしない程熱中し、全員が力を合わせて一連の500号の大作を完成させたのです。

2日間に亘る制作活動の最後には、学校長を含む、美術の先生、生徒、そして私達二科会関係者が一緒にあって、青春時代の歌を大きな声で唄って終了しました。制作活動を通して学んだ事や楽しい時間を共にした事は、生徒達にとり、一生の良い思い出となることでしょう。



第102回二科展に向けて 支部通信

今回は、二科展巡回展を支える開催各地の支部活動紹介です。



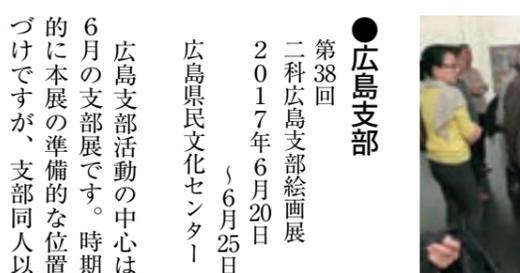
●東海支部
構成地域：愛知、三重、岐阜
東海支部研究会
2017年7月16日(日)
9:30~16:30
名古屋市
中生涯学習センター美術室
絵画部は毎年7月に一般出品者対象の研究会を開催。昨年は一人3点以内の中で50人の参加者から、127点の搬入があり、熱気あふれる会場でした。
4部門出品者 356名
東海支部長 三後勝弘



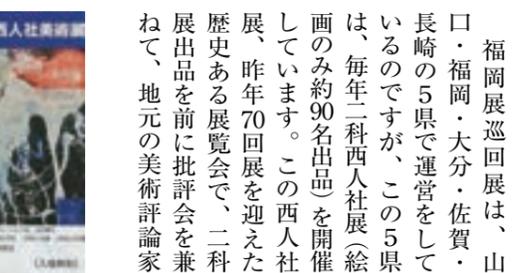
●北陸支部
構成地域：石川、富山、福井
毎年6月から7月にかけて、北陸二科展と称し支部展を開催しています。絵画、彫刻、デザインとの三部門55名の作品が一堂に並ぶこの機会を活かして、研究会にしています。会員が助言者となり、支部員はどの会員からも助言が受けられます。今年は富山での巡回展開催です。特に富山支部員の研鑽の場となるよう期待をしています。
北陸支部長 山岸光代



●関西支部
構成地域：大阪、兵庫、奈良、和歌山
春に開催しております。関西二科展が、美術館改修工事のため開催中止となりました。関西支部は、7月に研究会を兼ねた交歓会を開催しておりますが、支部展がなかった分、時間を延長して開催を増したパワフルな活躍を期待したいです。
現在支部メンバー81名(会員11名・会友18名)
関西支部長 尾崎 功



●広島支部
第38回
二科広島支部絵画展
2017年6月20日
6月25日
広島県民文化センター
広島支部活動の中心は6月の支部展です。定期的に本展の準備的な位置づけですが、支部同人以外も参加出来るオープン形式の展覧会です。一般の方も二科の作家と交流



●福岡支部
福岡展巡回展は、山口・福岡・大分・佐賀・長崎の5県で運営をしていくのですが、この5県は、毎年二科西人社展(絵画のみ約90名出品)を開催しています。この西人社展、昨年70回展を迎えた歴史ある展覧会で、二科展出品を前に批評会を兼ねて、地元の美術評論家



●鹿児島支部
二科鹿児島支部では6月に「サロン・ド・二科鹿児島」と銘打って支部展を行います。同人は100号以上を2点出品し、最終日には102回展へ向けての研修会を行う予定です。また、新しい試みとして、支部展会期中に隣の宮崎支部との交流も計画しています。
構成人数：絵画部36(会員10、会友13、一般13)、彫刻部1(会員)
鹿児島支部長 前田芳和

★支部ご参加のお問い合わせ・詳細は二科会事務所まで。

第三十九回 定時会員総会

日時 平成29年5月27日
午後1時～3時
場所 国立新美術館講堂
出席会員182名(委任状出席94名)より総会成立。
出席理事

- 田中 良 松室重親
- 生方純一 川内 悟
- 菅原二郎 吉野 毅
- 黒川彰夫 山中宣明
- 中島敏明 香川 猛
- 中原史雄 宮村 長
- 西 健吉 大隈武夫
- 登坂秀雄 小田信夫
- 島田紘一 呂
- 出席監事
- 木戸征郎 尾崎 功
- 前田耕成
- 議長 田中 良



第5号議案
選挙制度改善案について
松室常務理事、吉野常務理事、山中理事より別紙資料を基に説明があり、次の3項目が承認された。
・役員選出選挙については監事も理事同様信任投票とし、総会の決議により選任する。
・役員選挙に際しては、現行の評議員被選挙人リストに加え、地域別リストを参考として配布する。
・評議員を8期16年以上務め、評議員職を離れる場合参事となる事ができる。資格、義務は会員と同等とする。

以上により総会の議事を終了し、議長は閉会を宣した。この後、絵画部、彫刻部に分別、各々、部会を行った。

◆絵画部部会
総会閉会後の休憩をはさみ、3時30分より引き続き講堂で絵画部部会が開かれた。

会員アンケート、評議員委員会、支部長会議などに寄せられた意見をもとに理事会が提出した絵画部審査方法の検討案資料により、多岐の議案が熱心に討議される部会となった。
等しく審査員全員参加の挙

手によって、作品の入落、授賞、会友・会員推挙者まで、審査会の場で選出していく、この透明性と公平性を旨とする審査方法が実施されて10年を経て、多数決ですべての推挙・賞・入落決定がされることだけで万全なのか、更なる慎重審議が必要ではないか、そうした検証課題を含め、より良い審査方法や改善を目指し広い視野から検討された。

特別賞と会員・会友推挙の選定手順、さらにダブル受賞の考え方についてなどでは、会員の多くの発言、応答があり、賞は作品を対象として審査決定とするが、会員推挙は公益社団法人二科会の組織構成員の人事として、作品の質に加え、過去の業績や適性、支部での活動状況なども審議が必要であるとの認識が示された。こうした認識から特別賞、会員推挙のダブル受賞を是とする案や、更に密度の濃い推挙審議時間を設ける案など今後も討議が継続されることとなった。

その他、再考作品の入選号数、展示の問題などもあがった。
今部会で、審査中の賞札をまとめた用紙の使用など進行手順の改善、出品点数上限設定案等、賛成承認された案はさらに検討され、審査会初日に合意・確認のうえ102回審査にて実施予定である。

「新しい試みを保つていくよう突き進んでいきたい。会員の活発な意見交換を喜びたい」との田中理事長の挨拶の後、散会となった。(N)

◆彫刻部部会
定時会員総会後、彫刻部部会が開催されました。まず議長選挙規定の改訂(議長任期を一年～三年に延長)案が了承されました。

次に展示委員(豊田委員)より101回展の反省会の報告がありました。また春季展の反省から、台座の種類が多くある事を事前に知らせるべき、などの指摘がなされました。中でも彫刻の展示スペースの在り方については、熱心に討議されました。

続いて理事より秋の展覧会の展示スペース縮小案について報告があり、様々な意見が出されました。この議題は、重要な内容なので引き続き彫刻部部会で話し合う事になりました。

また、ギャラリートーク係(二ノ宮委員)からの報告の後、事務(宮路委員)からは本年度の出品規約、搬入時における受け入れ方や、展示搬出等の立ち合いの確認がなされ、彫刻部の日程と役割分担、会員・会友の現状報告、事務作業の今後について報告されました。最後に会計報告が了承され閉会しました。(友)

第102回二科展 日程表

- 8月
- 24日(木) 搬入(業者・個人)
- 25日(金) 搬入(個人)16時まで
- 26日(土)～29日(火) 審査
- 30日(水) 入落通知発送
- 9月
- 1日(金)～2日(土) 業者選外作品搬出
- 3日(日) 選外作品搬出(彫刻)
- 4日(月)～5日(火) 個人選外作品搬出
- 5日(火) 展示日
- 6日(水) 展覧会初日
- 7日(木) テープカット10時
- 8日(金) 作品研究会
- 9日(土) 「絵画」12時～14時
- 10日(日) 授賞式14時
- 11日(月) 祝賀会18時
- 12日(火) 休館日
- 13日(水) ミニコンサート18時
- 14日(木) ギャラリートーク
- 15日(金) 「絵画」13時
- 16日(土) 「絵画」13時
- 17日(日) ギャラリートーク
- 18日(月) 「絵画」13時
- 19日(火) 展覧会最終日
- 20日(水) 搬出(絵画)

パリ賞 研修報告

パリ賞で得たもの

篠原涼子 (第98回展 パリ賞)

パリ郊外の街、Pantinに住むようになって、1年半が経ちました。なぜ今、私がフランスに住むことになったかという、きっかけはパリ賞でした。
2014年の夏、やっと重い腰を上げ、前年度パリ賞・副賞の1ヶ月半のヨーロッパの旅に出て、ロンドンに2週間、パリに1週間、フィレンツェに3週間程滞在しました。

イギリスのセブンシスターズで見た景色は忘れられません。真つ青な空、海から吹く強い風、真つ白な岩壁、緑に茂る草、何もかもが清々しく、コンスタブルの描いた空の青、ターナー



イギリス・セブンシスターズ

の描いた空に放出する光は、実在したんだなあと感じました。
フィレンツェでは、途中から恩師や友人と合流し、賑やかな旅となり、スクロヴェーニ礼拝堂のジョットの壁画、サンタクローチェ教会のパイプオルガンの音、静かで穏やかな時間が流れていました。マール紙、製本、額縁の職人の工房や画材屋を訪れ、ヨーロッパ古来の技法材料に触れる毎日でした。
さて、パリでは、初日から詐欺に合い、不信任に満ちた中、ルーブル美術館内で迷ってしまい途方に暮れ、近くにいた人に声をかけ案内してもらい、その人は親切にも私の行きたい場所まで一緒に行ってくれて、「日本から来た、絵を描いている」「フランス料理は食べた?」「ノー」「じゃあ、僕が連れて行ってあげようか?」「驕りやたらいくで」と、近くのビストロへ一緒に行きました。その夜食べたフランス料理は美味しく、「フランス人にもいい人がいるんやな」と、ささくれだった心も少し癒さ

れました。パリで出会った彼は、なんとフィレンツェ滞在の私のアパートに花束を送ってくれ、日本に帰ってから毎週、自宅にバラの花束が届きました。その後、2015年9月、私たちは日本で結婚式を挙げ、11月末にフランスへ引越して、昨年、近くの教会でフランス人の夫と結婚式を挙げました。
現在は慣れないながらも、作品発表の場所を探しながら、制作と主婦を続ける毎日です。来月には初のグループ展に参加させてもらうことが決まり、今できることを精一杯やろうと準備しています。言葉もあまり通じず、作品だけが私の感じたいものを表明できる唯一の手段という状況の中で、今更ながら絵画で自分の感性を表現することの可能性を信じたいという気持ちを強く持つようになりました。
今後、どのように私の画家人生が動いていくのかわかりませんが、ただただ自分の感じたことを素直に表現することを大事にし、制作を続けていきたいと思えます。日本でもいつか、皆さんに見ていただく機会が持てることを願っています。

パリ賞 研修報告

ニューヨーク旅行記

水元美穂子 (第100回展 パリ賞)

昨年のクリスマススイブから年末までニューヨークへ行き、6日間でマンハッタン、ブルックリン、クイーンズを回りました。
街の移動には地下鉄を使いました。多種多様な人が乗っていて、ラインによって乗客の感じが違い、いつも利用している京都の地下鉄との違いが印象的でした。

クリスマスにラジオシティでクリスマス・スペクタキュラーのショーを見てからタイムズスクエアへ行き、歩くのが大変なぐらいの人混みと、眩しいイルミネーション



ブルックリン橋とニューヨークの街並

ンに囲まれ、改めてニューヨークにいる非日常を実感しました。
ニューヨークには多くの美術館があり、面白い絵を沢山見ることができました。中でも一番印象に残っているのは、ホイットニー美術館で見たJonas WoodのNight Bloom Still Lifeという作品です。観葉植物や陶器の壺が描いてある静物画で、植物や植木鉢等の模様やフラットな色が面白く一目で好きになりました。インターネットで調べてみると、絵のモチーフである植木鉢は陶芸家である彼の奥さんが造った物らしく、静物画でありながら、彼の絵日記のようなものだということが判りました。
私は生活の中で目にする身の回りのものを描いています。一般的に静物画と呼ばれるジャンルになると思いますが、彼と同じようにその時の生活を描きとめる絵日記のような思いで描いています。彼の作品はとても勉強になると思います、研修旅行先をニューヨークにし

て良かったと思えました。街中で見られるビル壁一面に描かれた巨大なグラフィティにも興味があり見に行きました。ブルックリンにあるプッシュウィックという倉庫街だった街のエリアー帯がギャラリィのようになっていて、殺風景な街にグラフィティが並びマンハッタンとは一味違う雰囲気でした。絵を一つ一つ見ると、好みのものもあれば、そうでもないものもありましたが、ルールなしの面白さとインパクトがありました。あんな大きな壁に絵が描けたら気持ちいいだろうと思えました。
パリ賞を受賞しなくても、いつか行けたかもしれないですが、違うものになっていくかと思えます。今までいくつかの外国の街を訪れましたが、今回のニューヨークの研修旅行は特別です。



ホイットニー美術館にて

第3回コラボ展示

猫・犬・花と戯れる！

今回で3回目のコラボ展示になります。テーマは「ネコ・イヌ・花」と決まりました。動物が2匹続いたので色が華やかになるように、花(植物)を増やしました。また新しい試みとして、ミ二個展を会場内で開きます。小スペースですがまずは4か所、4部門でスタートです。参加者が増えることを期待して4回目では8か所を計画しています。折角出来たコラボ展示、来場者の楽しみの一つに育っていくように色々と企画していきたいと考えています。(島田 紘一 呂)



新支部長紹介

北海道支部：飯田由美子会員
大分支部：加藤光子会友
千葉支部：加藤ひとみ会員
静岡支部：石倉妙子会員
愛媛支部：黒川美紗子会友
山形支部：町田至会友(彫)

短信

■日動画廊主催の、若手美術家の育成、顕彰を目的とする公募展、昭和会展で、遠藤学さん(絵画部・U35)「the knock of nature」(ポールペン・水彩 50F)が優秀賞を受賞。遅野井梨絵さん(デザイン部)が入選されました。

帝国ホテル二科サロン

- 第3期(7月4日~10月3日)
瀬野道子 大久保リツ子
村上雅洋 加藤由喜子
大洞定治 山口博司
村山成夫 浅利美伎子
木村信子 平林直哉
柳 賢淑
- 第4期(10月3日~1月9日)
大築笙子 高山章亮
山下 宏 高岡次子
小川エリ 金折文男
山下泰弘 今村恵利子
工藤静香 立石洋子
福島菜菜

生誕120年 東郷青児展

《広島会場》
ふくやま美術館
平成29年7月8日(土)
9月3日(日)
《東京会場》
東郷青児記念
損保ジャパン日本興亜美術館
平成29年9月16日(土)
11月12日(日)

《福岡会場》

久留米市美術館
平成29年11月23日(木・祝)
平成30年2月4日(日)
《大阪会場》
あべのハルカス美術館
平成30年2月16日(金)
4月15日(日)



絵画部会友 高橋 晴人氏

二〇一六年十二月二十四日逝去
享年88歳
略歴 第56回展 特選
第69回展 会友推挙
第86回展 会友賞

事務局だより

今年国立新美術館へ移転した大きな転換期であった92回展からちょうど10年目。その間、社団法人から公益社団法人への移行があり、節目の100回展も開催された。一世紀の伝統を持ちながらも、常に前向きに改革しながら歩んでいるのが現在の二科会ではないだろうか。

委員長の発案で100回展から四部門コラボ展示が開催されている。3年目の今年には写真部の森井理事長の声がけで写真部の参加者が倍増。部門の違う作家作品が同一テーマでコラボされ、休憩室がホッコリとした展示空間で彩られる。

役員選挙制度導入から12年、会員アンケート結果を精査し、改めるべき点はないかと昨年から選挙検討委員会において審議してきた。団体審査に関わっている都庁の担当者からも二科会の審査は「他団体のモデルケースになりますね」との感想を伺ったのも最近のこと。

6年前の3・11東日本大震災から続けられて来た東北での義援活動。今年3月は、昨年4月巡回展最中に起きた熊本地震被災地で、担当を西日本の理事や支部長の方々に移しての絵画教室を開催。層の厚い二科会役員を垣間見る。生徒達が大作を仕上げたその教室で、二科会メンバーからのアカペラのサプライズ。曲目は「若者たち」。西理事がタクトを大きく振り、黒板に書いた3番までの歌詞を皆で歌う。段々と心が一つに高まって行く瞬間に感動。こんな素敵な心ある活動を実践出来るのは数ある公募団体の中でも二科会だけではないか。

この時代に二科会事務局に籍を置くことが出来、感謝の気持ちで一杯である。これから暑い夏が始まる。102回展会場には精魂込めた作品と共に、阿蘇の自然に体当たりで挑戦した生徒作品が展示される。

二科会事業である巡回展は巡回展支部、特に支部長・会計の方々の多大なるご協力により、運送・保険・経理の面での改革が進んでいる。デザイン部の展覧会実行

事務局局長 埴 珠世

編集後記

◆春号表紙は、前年の総理大臣賞受賞作家にお願いしています。◆今号の作品評は春季賞投票得票をもとに、又、会員3氏に会場から任意の作品(私の選ぶ1枚)を寸評頂きました。◆巡回展は開催地の隣接地支部長、会員方々の尽力、会友・出品者の協力による、全国公募の礎です。その巡回展開催地の熱気ある支部活動紹介です。◆そして、その全巡回展会場を鑑賞された渡辺会員に短文をご寄稿いただきました。◆春季二科賞受賞者は、岩手の一般出品者宮本さん。山形新支部設立など、頑張る二科東北支部連合の成果です。(N)

編集委員

- 委員長(絵) 野村 みそら
- 委員(絵) 田川 絵理
- 〃 〃 尾崎 ゆき子
- 〃 〃 谷口 貞久
- 〃(彫) 廣瀬 友彦
- 〃 〃 宮澤 光造

公益社団法人 二科会

平成二十九年六月二十日発行
〒100-0022
東京都新宿区新宿4-3-15
レイフット新宿 501号室
電話 03(3355)6646
FAX 03(3355)4768